

# 堺が誇れるお話に感動

## 南区ブロック新春のつどい開催



代表世話人の大槻洋子さん

参加者からは、「堺は日本一誇れる須恵器や小西行長を輩出した土地だと分かり感動した」「顕彰碑を見に行きたい」などの感想が寄せられました。  
 (美木多支部 城勝行)

2月12日(水)泉ヶ丘パンジヨホールで「南区ブロック新春のつどい」が開催されました。大寒波の下、小雨が降るも50人の参加でした。大槻代表世話人と森専務理事の挨拶に続き、榎本多加三(郷土史家)さんの「堺泉北の歴史」の講演がありました。森専務理事からは、南区から鳳・高砂フリニツクへの受診者が約1000人おり、その6割が高齢者であることから将来を見据えて、南区で在宅事業の拠点づくりの方向性を示されました。



会場から質問もありました



榎本多加三さんによる「堺泉北の歴史」の講演

榎本さんの講演は好評で、特に熱心に聞かれていたのが小西行長の話でした。戦国時代、行長は堺の薬種商の息子でしたが船や国際情勢に詳しいことから秀吉の朝鮮出兵の先陣大将になったとされています。

堺の地では戦乱の中で孤児たちに毎年100石の提供やハンセン病(らい病)で迫害されている人たちを保護する施設を造り、大坂では1000人も罹患者を守りました。

しかし、関ヶ原の合戦で西軍の石田三成に付いたため、鉄の首輪に足枷で堺から京都まで引きまわされ斬首されるという壮絶な死を遂げたそうです。

旧堺市内にあった行長の顕彰碑が現在南区の鉢ヶ峰の公園裏地に移されているとのこと。



「日頃からできる認知症予防」



「多様性について考えるLGBTQって何だろう?」

「認知症」の講義では、認知症クイズを開催し、楽しみながら学習することができまし

2月20日(木)、入職1年目の事務職員が友の会の方々に対象に「多様性」「認知症」「鳳新フリニツク・地域コミュニティ棟の紹介」といった3つのテーマで出前講座を行いました。

「多様性」の講座では、LGBTQとは何かを学びながら、実際に自分の家族が当事者であったときにどうするかといったグループワークも行い、様々な意見を共有し合いました。

**前座  
出講**

### 入職1年目の職員による 多彩な3つのテーマで大好評!

「鳳新フリニツク・地域コミュニティ棟の紹介」では、それぞれ新しくできる施設の紹介に加え、開催予定のワークショップや内覧会について参加の呼びかけも行いました。

(事務1年目 山口涼香)

**介護  
の現場から**  
西第3地域包括支援センター

庄司 美沙

令和3年5月災害対策基本法改正により、避難行動要支援者(個別避難シート(計画)作成が市町村の努力義務となりました。堺市でも個別避難シート(作成)に係る取り組みがすすめられ、個別避難シートの

**「個別避難計画」を  
ご存じですか?**

別避難シートの対象で、作成を希望する要支援者の方は、市から福祉専門職の所属する事業所

ありません。「その時」にはだれも自分の身を守ることで精いっぱい。「来てもらえない」ことも含めた備えになります。そう考えると

きるものはショートステイ確保や避難所への早期移動。計画そのものは大変心許ないものが多くのですが、個別の策定に立ち会うと課題は色々見えてきます。

頼るべき近親者がいない方や「すぐに駆け付けられる」支援者がいない。家族が同居していても重介護のこの方を誰が動かせるんだろう? 自立度が高くてもコミュニケーションに配慮のいる障害を持つ方もいます。「どういつ課題があるか」を詳らかにしていく機会にもなるので地域包括支援センターとしては立ち会った際は「地域ケア会議」として設定し、課題抽出して市に報告書を提出しています。

備えていても間に合わないこともありすが、「こうしておけばよかった」は減らしていきたいですね。